

1 単元（題材） 新出漢字の学習

2 目標

漢字の読み方や使い方・画数を知り、字形正しく、美しく書けるようにする。

3 活用したICT

電子黒板 プロジェクタ

4 活用したICTの特性

- ・ 学習する漢字を拡大表示し、書き込みを加えることで、とめ・はね・はらい・字形など、気を付けるポイントを理解させることができる。（電子黒板）
- ・ フラッシュ教材を用いて筆順を拡大提示することで、筆順への理解を深めることができる。（プロジェクタ・コンピュータ）

5 実践の様子

① 学習する漢字をプロジェクタで提示し、読み方や使い方、画数などを学習した。その際、児童が知っていることへのつぶやきをなるべく多く拾うようにし、漢字への興味・関心が高まるようにした。

② 気を付けるポイントを意識させるために、とめるところや折れるところは赤色で丸や線を書いた。はねや払いは黄色の三角で囲み、はねや払いの向きを確認した。字形を意識させるために、字の周りに青色の線を引いた。【資料①】

③ フラッシュに合わせて、空書きで筆順を繰り返し練習した。繰り返し練習しても飽きないよう、スピードを変えたり、フラッシュを止めて筆順を考えさせたりした。

④ 正しく空書きができたところで、漢字スキルに書かせるようにした。【資料②】



【資料①】書き込んだポイント



【資料②】漢字スキルに書き込む児童

6 成果と課題

○ 電子黒板を使って漢字学習にフラッシュ教材を取り入れたことで、気を付けるポイントや筆順などを、児童に分かりやすく提示することができた。そうすることで正しい筆順、美しい字形で書こうという意識が高まり、丁寧に取り組める児童が増えた。その結果、多くの児童が字形正しく・美しく書けるようになってきた。また、児童の漢字への苦手意識も少なくなってきた。

● 漢字が書けるようになって、作文や日記を書くときに漢字の誤用をしてしまったり、面倒くさくなって平仮名が多くなったりする児童がいた。今後は書けることだけでなく、正しく使いこなすことまでを視野に入れて指導にあたっていきたい。